

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型デイサービス ひかり（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 22日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	2025年 3月 22日
○従業者評価実施期間	2025年 1 日 ～ 2025年 3月 22日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の広さは、空間的には広く死角がない。子供たちの行動や見守りはしやすく、安全面も確保できている。身体障害児の受入が多いため、安全面の配慮はできている。また空間が広いことで、車椅子使用の児童も車椅子から降りて座位になったり横になったりして活動ができる。	災害にも備えて、棚などの配置が少なく、広々と使えるようにしている。死角がないことで、職員がどの場所にも子供たちの様子が見れるようにしている。また、できるだけ車椅子から降りて活動できるよう、来所後はマットに降りてもらい、座位や横になって過ごしてもらうようにしている。	身体障害児が多いため、車椅子から降りて横になって過ごす、広い空間もやや狭くなる。今後、もう少し広い場所への移設を検討している。
2	話が出来ない児童も多いため、保護者との連絡ツールとして連絡アプリを利用している。また、それと合わせてLINEアカウントでの連絡も可能としており、常に職員と保護者が連絡がとれる状況としている。	営業時間外でも、保護者が連絡したい時に連絡が取れるよう、24時間LINEアカウントで連絡が取れるようにしている。緊急でない場合は、朝の7時～夜の10時の間に返信し連絡がつくようにしているが、緊急時は都度対応している。	24時間連絡が取れる体制を整えているが、欠席の連絡など必要な連絡が出来ない保護者がおられる。必要な連絡は必ずしていただけるよう呼びかけを繰り返し行い、連絡アプリツールの利用も併用してできるよう利用方法の説明などを行っていく。
3	身体障害児が多いことで、残存機能を活かして楽しめる活動を工夫して行っている。医療的ケア児で自由に動くことのできる児童もあり、どの子も楽しめる活動を提供している。	残存機能を活かして楽しめるよう、手作りの道具を作って提供したり、残存機能を活かせるようなレクリエーションを提供しすべての子供たちが楽しめる工夫をしている。	今後も、子どもたちの状況に合わせた道具を提供しながら、みんなで楽しめる活動を考案し、動ける児童も動けない児童もどちらも一緒に楽しめる工夫を続けていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常勤を含めた職員全体での会議や研修への参加が難しい。	非常勤が多く、また週に1～2回勤務の非常勤もいるため、参加が難しい。	月に何回かに分けて研修会を開催したり、また、月に1回研修や会議のために全員招集できる日を決めるなど検討していく。
2	現在の児童発達支援を利用している人数が少なく、個別活動が主となっている。	利用人数が少ない。	児童発達支援利用の人数を増やす。また、少人数で楽しめる集団活動を考案し提供していく。
3	地域住民との交流が少ない。	地域住民が隣に1軒しかなく、なかなか声掛けがしやすい状況である。	声掛けする範囲を広げたり、また、地域の保育園などにも知ってもらうため、行事の時などに呼びかけを行っていく。